

7月号

学校教育目標

ゆたかな子 たくましい子 かしこい子



# 東大成小だより

さいたま市立東大成小学校

令和4年 7月1日

ホームページ:<http://higashionari-e.saitama-city.ed.jp>

Te1 663-3210

Fax 663-9883

## 東大成小の博士ちゃんにエール ～得意なことを生かして～

校長 岡田 健彦

梅雨が明け、晴天の猛暑日が続く中、体育館と校舎の間の目立たない場所には、青、紫、桃色の紫陽花がまだたくさん咲き続け、心を和ませてくれます。

さて、朝の時間や休み時間に教室を回っていると「校長先生見て見て！」と自分で書いたイラストを見せてくれたり、読んでいる歴史上の人物についての本を紹介してくれたり、中には習っているジャズダンスを披露してくれたりする子もいます。私は、テレビで芸能人が俳句や生け花、絵画などの才能査定ランキングを競い合う番組を見ていて、芸能人の多才さとその努力に感銘を受けていましたが、最近では、ある特定の分野に詳しい子どもが先生役「博士ちゃん」として出演して授業を行い、芸能人の質問に答えるバラエティ番組も楽しく視聴しています。私は、このような「博士ちゃん」は、本校にもたくさんいるのではないかと考えています。ぜひ、その知識を認め、活躍の場を用意し、力を伸ばせるようにしていきたいと考えます。

一芸に秀でていることのよさは、いわずもがなのことですが、これまで、意外と無駄な知識として、切り捨てられてきた側面があるのではないかと思います。例えば、私の友人にも、子どもの頃に新幹線の発車時刻をすべて覚えていて、大手旅行会社に就職した人物がいましたが、当時は「変わっている」ように見られていたこともありました。歴史に詳しい友人も当時は「マニア」として周囲に受け入れられていたとは言い難い状況でした。「博士ちゃん」も一見、実生活に役に立たない知識の持ち主のように見えますが、誰にも負けないほどの詳しい知識というものは、実は、大変価値あるものであるということがわかります。

世の中は、これまで私たちが経験したことのない速度で劇的な変化を遂げようとしています。情報が溢れ、価値観が多様化し、先が読めない時代になりました。これまで教室でなされていた規範や指示に従い、与えられた役割や課題をミスなく果たせることをよしとする指導方法は、いわゆる「博士ちゃん」のような特徴的で一芸に秀でた人材には冷淡で、むしろ、空気を読み主張を控え規律に従う子が受け入れられてきました。これからは、リアルタイムに世界とつながる中で、新しい価値を生み出すクリエイティブな個性が求められる時代です。私たち大人は、子どもたちを追い込む「同調圧力」を生み出したり、「正解主義」を是としたりしないように意識改革をしていく必要を感じます。私は、校長として本校にもたくさんいると思われる「博士ちゃん」を発掘して大いに認めていこうとプロジェクトを検討していきます。もうすぐ夏休みになりますが、ぜひ、ご家庭や地域でも子どもたち一人ひとりの個性を生かし、得意な部分を相手に披露できるくらいにまで伸ばしていただくとありがたいです。私は、「博士ちゃん」の極めて深い興味関心とあきらめずに探求していこうとする姿勢、そして、得た知識を生き生きと伝えていく態度に将来への期待を抱くのです。